

「貝」といわれる貝殻は、古くから、炊事洗濯に使うような生活道具として使われていました。しかしむかし平安時代の頃、物合せの一つとして貝殻の色合いの美しさや珍しさ、貝に添えた歌の優劣を競う「貝合わせ」という貴族の遊戯がありました。そのため、貝の内側に絵は必要ありませんでした。その後、「出貝」の遊戯は、片側を「地貝」もう片側を「出貝」と呼び、地貝を伏せて円状に並べ、入れ物から一枚の出貝を出して中央に伏せておき、地貝の模様や形が同じものを見定めて貝を合せ、最も多く取つたものが勝ち、というものに変化してきました。

そして江戸時代、貝の内側には花鳥風月・絵物語などの見事な装飾が施され、貝を入れる貝桶も立派なものを作られ、作られ、戯に使うものとしてだけではなく、調度品として、みごと嫁入り道具の一つに「貝桶」というものがあり、この「貝桶」の中に360個のはまぐりが入っています。



貝の内側に施された装飾

お姫様の嫁入り道具

「貝」といわれる貝殻は、古くから、炊事洗濯に使うような生活道具として使われていました。

貝殻の内側には花鳥風月・絵物語などの見事な装飾が施され、貝を入れる貝桶も立派なものを作られ、作られ、戯に使うものとしてだけではなく、調度品として、みごと嫁入り道具の一つに「貝桶」というものがあり、この「貝桶」の中に360個のはまぐりが入っています。

市埋蔵文化財センター
☎ 23-8020

(21)

DOKI DOKI
どき
たいむとらべらー



もちろん、お姫様の嫁入り道具ですから、炊事洗濯に使うような生活道具ではありません。

むかしむかし平安時代の頃、物合せの一つとして貝殻の色合いの美しさや珍しさ、貝に添えた歌の優劣を競う「貝合わせ」という貴族の遊戯がありました。そのため、貝の内側に絵は必要ませんでした。その後、「出貝」と呼び、片側を「地貝」もう片側を

並べ、入れ物から一枚の出貝を出して中央に伏せておき、地貝の模様や形が同じものを見定めて貝を合せ、最も多く取つたものが勝ち、というものに変化してきました。

そして江戸時代、貝の内側には花鳥風月・絵物語などの見事な装飾が施され、貝を入れる貝桶も立派なものが作られ、作られ、戯に使うものとしてだけではなく、調度品として、みごと嫁入り道具の一つに「貝桶」というものがあり、この「貝桶」の中に360個のはまぐりが入っています。

貝殻の内側には花鳥風月・絵物語などの見事な装飾が施され、貝を入れる貝桶も立派なものを作られ、作られ、戯に使うものとしてだけではなく、調度品として、みごと嫁入り道具の一つに「貝桶」というものがあり、この「貝桶」の中に360個のはまぐりが入っています。

にのへの宝展を開催します

30種目

12月23日（水）から翌年1月5日（火）まで「にのへの宝展」を開催します。本市の宝を写真などで紹介しますので、皆様のお越しをお待ちしております。

二戸市の宝探しは、平成4年から始まり、「自然」、「生活環境」、「歴史・文化」、「産業」、「名人」、「要望」と6つの分野で宝を探しました。この探した宝をマップにし、各地区に「宝の案内板」や「宝の説明板」などを設置して、市内外の方に地域の宝を紹介しています。

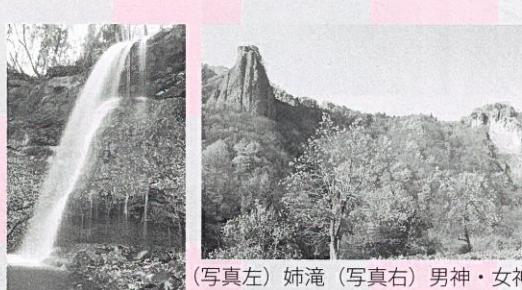
また、各地域でこの宝を活用してイベントを開催するなど、地域で宝を生かす取り組みが進められてきました。

現在は、旧浄法寺町も含めて新たな宝探しを進めており、これからも宝を生かして地域の活性化に向けた取り組みを進めていく予定です。

にのへの宝展で二戸の宝を再発見してみてはいかがでしょうか。

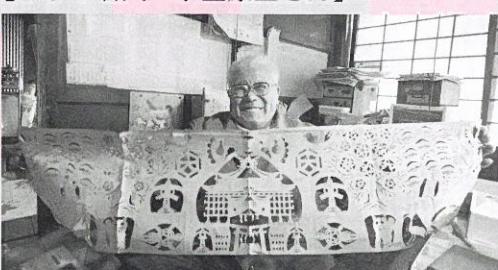
日程 12月23日（水）～1月5日（土）まで

場所 カシオペアメッセなにやーと3階 展示ルーム他



(写真左) 姉滝 (写真右) 男神・女神

【まちの名人…小笠原正さん】



小笠原正さん（84歳・金田一川）は、神棚に飾る御幣切りの名人で、以前からのものに「亀」や「招き猫」など独自の図案を加えて切っています。小笠原さんは「御幣切りは1枚の紙を切って作ります。指に力が入り、神経を集中するので頭の働きが良くなります。小学校高学年以上なら誰でもできますので、興味のある人はご連絡ください」と話します。また、小笠原さんは戦時中、ゼロ戦の整備をしていたそうで、懐かしい昔話なども話してくれます。

まちの名人をご紹介ください。自薦・他薦問いません。

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線654）まで